

研究発表 I

学校名 中央農業高等学校 P T A

研究テーマ「命はぐくむ中農 P T A」

1 学校紹介

中央農業
高等学校
は、明治
39年の開
校以来、愛
甲郡立農



業補習学校、県立愛甲農業高等学校を経て、昭和40年に県立中央農業高等学校と改称され、今年で創立112年目を迎える歴史と伝統ある農業高校です。この間、学科改編などを行い、現在は、園芸科学科、畜産科学科、農業総合科の3学科があります。海老名市の南に位置し、水田に囲まれた自然豊かなところにあり、西には相模川が流れ、その先に丹沢連峰や富士山が見渡せます。県立高校の中で一番広い敷地(東京ドーム3つ分)をもち、温室・水田・牛舎・豚舎・鶏舎・実験棟など充実した施設があります。校内にある創立100周年記念碑には、「命はぐくむ」と刻まれています。これは学校が100年にわたる農業教育を通して培ってきた「命を守り、育てる心」を象徴した言葉です。生徒はそれぞれの学科の専門分野を学習しながら、「命の大切さ」、「自然環境



の大切さ」を学ぶとともに、校訓にあるように、「心身を強くし「実践を学び」

「至誠を貫く」ことで、地域社会に貢献できる実践力を高めていきます。卒業生は地域の農業を担っている方をはじめ、様々な分野に有為な人材を輩出しています。



2 P T A活動の紹介

中央農業高校 P T A は、本部役員・学年委員・広報委員で運営しています。人数構成は、本部15名、学年16名、広報17名です。さらに専門部会として、園芸部会、農業総合部会、畜産部会が、それぞれ独立した活動を行なっています。毎年役員選出も難航することなく、スムーズに決まり、役員会の委員会への出席率もよく、動物たちや植物とのんびりした自然の営みを感じながら、和気あいあいと和やかな雰囲気での会議が進んでいます。

〈会議運営の工夫〉

以前の委員会では3つの課題がありました。

- ① 各種行事の動員などの人選に時間がかかる。
- ② 議事の次回持ち越しが多い。
- ③ 本部役員は拘束時間が長く



(9:00～16:00)負担が大きい。

そこで昨年度から、本部役員のメンバー構成※を見直し、各委員会の代表も加わり、運営委員会の議案を本部役員と同じタイミングで共有し、運営委員会前に「連絡会」を設け、各委員会で動員する人選をこの会で決めることにしました。結果運営委員会は30分間に短縮でき、議事以外の関心ごとについても話し合える余裕が生まれ、円滑な会議が運営できるようになりました。

(※本部役員、各学年の正副委員長、専門部会長、広報委員長、担当教職員)

〈本部役員会〉

学校との連携や定例会の運営、各種イベントの企画や各委員会のサポートを行なっています。

〈学年委員会〉

専門部会行事の企画、PTA総会・保護者会の受付、準備を行なっています。

〈広報委員会〉

学校行事、各イベントの生徒の様子を撮影、編集を経て、広報誌を作成し年3号を発行しています。

3 主なPTA活動

〈あいさつ運動(1回/月)〉

毎月月頭に生徒会本部役員とともに学校昇降口前であいさつ運動を実施しています。

〈校内整備事業〉

生徒に学校を気持ちよく使って欲しいと願いを込め、教室や昇降口の壁のペンキ塗りを実施しています。

〈体育祭〉

中農の特色として、パン食い競争に使う「パン」は、前日から生徒が一生懸命、心を込めて作っています。PTAでは、先生方とともに来場者受付、及び校内・敷地内パトロールを実施しています。また、昼食

前に冷たいお茶を生徒に提供しています。

〈秋輝祭〉

中農では文化祭を「秋輝祭」と題し、大勢のお客様が来場されます。

PTAでは出店ブースを設け、飲食物品を販売しています。昨年度は、忙しくてなかなか昼食もとれない生徒への対応として、いつでも好きな時に食べることができる「創作パン」や「ラスク」を販売しました。今年度はオリジナル焼き菓子の販売を予定しています。

〈農業高等学校連絡協議会〉



県内5つの農業高校で構成される協議会です。自校の特色ある取組みについて、互いに情報を共有し、親睦を深めています。今年度は開成町の吉田島高校で開催され、粋な計らいで「アジサイ祭り」も堪能することができました。

今年度は開成町の吉田島高校で開催され、粋な計らいで「アジサイ祭り」も堪能することができました。

4 特色を活かしたPTA活動

〈園芸部会〉

お正月に向けてのフラワーアレンジメントを、先生のご指導の下、実施しました。

〈畜産部会〉

生徒が社会見学で訪れた、乳業工場や乳牛牧場を見学し、専門的な学びを体験しました。

〈農業総合部会〉





「命の授業講座」を受講した後生徒が心を込めて育てた夏野菜を自ら収穫し、

その食材でイタリアン料理を創作しました。パスタは粉を捏ねる作業・製麺・茹でる工程まで、ピザは腕が上がる程に生地を一生懸命こねて焼き上げるところまで、出来上がった料理を皆で美味しくいただきました。

〈いのちに関する教育〉

本校生徒は、近所の保育園児や特別支援学校生徒と、サツマイモの苗上や野菜作り



を行なっています。子供たちが気軽に散歩できるように、校内庭園の草刈りや整備を行いました。果樹や草花の成長、動物たちの様子も垣間見ることができ、いのちの尊さを改めて実感する良い機会となりました。

5 まとめ

本校は、さまざまな植物や動物が共生する環境があり、生徒は本物の生命と関わる経験を積むことができます。その日々の経験から命を守り育てる知識や技能を学び、これが自分自身の成長へ繋がり、生き抜く力が育まれています。それは我々PTAにおいても同様に、植物や動物が身近に感じら

れる機会を多く与えられることで、子供たちとの共通の話題が増え、コミュニケーションが深まります。また、積極的に学校と関わり、子供を取り巻く環境をさらに良くするため、ともに協力していきたいと思っています。

○質疑応答
なし

○助言 綾瀬高校校長

益子 薫先生より

お揃いのTシャツで結束力を高め、発表を聴きながらワクワクしました。学校概要もわかりやすかったです。日本の農業を担う人材発掘に期待が持てました。広大で充実した施設で学べることは羨ましいと感じます。いのちを育む、いのちをいただくなど直接体験できることも素晴らしい。多岐にわたる学科があることも知りました。そこで培った研究を発表し、表彰をうけたこと、全国レベルの活躍をされていることは中農で学ぶ生徒の皆さんの自信につながっていることと思います。PTA活動では、本部の人数が15名で多いと感じましたが大胆な組織改革をされ、特徴である連絡会を作り人数の多さが重要な要素であることがわかりました。体育祭、文化祭の協力では部会の特色がよく出でいました。生徒とともに学びの共有がなされていることが大事だと思います。PTAの活動によって家庭での健全育成につながっていることでしょう。学校、PTA、生徒が強い絆で結ばれ発展していってくれることを願っています。

研究発表Ⅱ

学校名 綾瀬高等学校 P T A

研究テーマ 「いってらっしゃい おかえりなさい」

1 学校紹介

昭和 52 年
4 月創立、
全日制普
通科の高
校です。昨



年度創立 40 周年記念式典を行い、これまでに 14,000 名を超える卒業生を送り出してきました。今年度は 42 期生 359 名が入学し現在、全校 1,068 名の生徒が在籍、各学年 9 クラス規模の生徒を 36 名 10 クラスの編成で展開しています。平成 24 年度から現行学習指導要領に基づき、生きる力となる「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の 3 つの力の育成を目指して学校作りに励んでいます。平成 25 年度から 3 年間は教育力向上キャリア教育研究推進校として、生徒の「主体的に考え探求する力」「コミュニケーション能力」「主体的活動を通して進路を実現する力」の育成に取り組んできました。また、昨年度からは人権教育研究校の指定を受け、授業はもちろんのこと、学校行事や部活動・委員会活動の取り組みの中、自己肯定感を高めることで他者を思いやる心、目標に向かって協力し粘り強く取り組む姿勢、地域社会に貢献する態度を身につけています。

生徒たちは、落ち着いた環境の中で、気持ちの良い挨拶をし学習に部活動にその他さまざまな活動に、毎日生き生きと充実した生活を送っています。そして生徒一人一人が自らの目指す進路実現に向けて頑張っ

ています。

① 校章

綾瀬の地名が、「瀬が綾をなす」という由来から「あや」と「せ」を図案化し、知・徳・体のせせらぎが調和しながら発達する意味を象徴したものです。



② イメージキャラクター『アヤせみ』



綾瀬市の市の鳥「カワセミ」になぞらえて、平成 23 年に本校教職員の発案によって誕生しました。学校案内などの印刷物に登場して「癒し」「親しみやすさ」を与えてくれています。

2 P T A 紹介

《本部》

学校のパイプ役であり、諸々の調整や情報提供を行い、各委員が活動しやすい環境を提供するために活動しています。

《成人委員会》

社会見学を企画実施しています。会員同士の親睦を深めること、自らのスキルアップを図ることも目的に実施。今年度は歌舞伎鑑賞を実施し、参加者から大変好評だったと嬉しい報告を受けています。

《広報委員会》

広報誌「綾友」の作成発行をしています。「綾友」の編集発行に向け、体育祭、文化祭などの大きな行事はもちろん、小さな行事の際も駆けつけ、カメラで様々な角度から広報誌のネタを撮影、編集をしています。

《一学年、二学年、三学年委員会》

年度の初めに、各学年の先生方と保護者の顔合わせの場を企画。話をしてみないとわからない、保護者、先生方の人柄に触れる貴重な機会を設定しています。

一学年親子で楽しむ芸術鑑賞

二学年保護者向け大学見学ツアー

三学年文化祭「彩綾祭」でPTAブースの企画

活動紹介

① 体育祭での給水



給水テントを設置し、冷えた麦茶を生徒、保護者の方に提供しています。今年は180リットルを提供し

ました。また、実行委員にお手伝いを募り運営しています。生徒からの「おいしい」「ありがとうございます」の声がエネルギーの源と感じ、校庭に戻っていく背中を見送っています。

② 環境改善事業

校舎のペンキ塗りの活動です。毎年夏休み中に実施し、教室や廊下のペンキ塗り



見違えるほどになります。「新学期に登校してきた生徒たちを驚かそう」を合言葉に参加者をPTA会員と生徒から募りPTAが用意したお昼ご飯を挟んで行う事業です。

③ 彩綾祭でのマドレーヌ販売

彩綾祭で、校章焼印入りマドレーヌを販売し、毎年早々に完売になるほど好評です。今年で4回目の実施ですが販売数は300、600、800と増やし、今年は1,000個を完売しました。



3 交通安全への取り組み —課題と対策—

—課題—

・駅から遠い場所に立地しているため、自転車利用者が多数であり、自転車乗車時の事故も多い。駅から学校、駅から自宅までといった通学の一部に自転車を利用する生徒まで含めると81%が自転車を利用している。

・登校時、特に学校近くの通学路では短い時間に多くの自転車が集中するため、一般の方に迷惑をかけることがある。

—対策 1— ～これまで実施してきたもの～

・ふれあい交通指導

学期の始まりと終わりに、風紀委員の生徒が学校周辺に、地元自治会の方たちと旗を持って立ち、早い時間帯は、小・中学生の登校の安全を見守り、声かけを行うなど地域の方からも高い評価をいただいている取り組みです。それ以降の時間は本校の登校者が増える時間帯ですが、見守りが手薄に

なるため、現在PTAも参加して通学する生徒の指導を行っています。



・スケアードストレート

毎年新一年生を対象に実施しています。校庭でスタントマンが、事故シーンを再現し視覚と音でその怖さを知るものですが、その生々しさは、再現であることに安堵を覚



えるほどのものです。平成26年度に県の事業で行なっていたの

のをきっかけに平成27年度以降は毎年行っています。多くの費用がかかりますが、その必要性からPTAが費用を負担して実施している学校行事です。

—対策2— ～PTAとして何かできる？を踏まえた上で実施したこと～

先生方の指導のもとで、学期ごとに自転車のブレーキの効き具合と点灯確認などの点検が行われていたが、より踏み込んだものとするため、専門家(自転車販売店の方)を招いて自転車点検講習会を企画し昨年12月に実施しました。

・自転車点検講習会

綾瀬市内の自転車販売店の方を講師として招き、整備の方法やポイントを教えていただくために実施しました。目的として整備不良故の、止まらない、曲がらない自転車に乗せないこと、万が一のアクシデントを回避しうる自転車に乗ってもらうことです。

普段、状況に気を配ることもなく、当たり

前に乗ってしまう自転車ですが、ブレーキが利かなければ、何かに衝突するまで停止できない。タイヤの空気圧が不十分であればハンドルでの回避ができない。このような無関心によって招きかねない事態を綾高生から遠ざけたいという思いから、第一歩としてプロによる自転車点検講習会を企画実施しました。

《自転車点検講習会の内容》

- ・参加者は各クラスの代表者44名
- ・ブレーキの効きが悪い場合の調整の仕方、どんな工具が必要かなど、チェーン、ライトの整備ポイントもレクチャーの上、実際に工具を手にし調整の体験をした。



・タイヤの空気圧を保つためには・・・ネジ部ではなく中に入っているムシゴムである。バルブを外しムシゴムの状態を見て劣化したものはその場で交換した。すぐに空気が抜けてしまう場合ムシゴム部分をチェックする。

4 まとめ

当初、説明のための模擬点検予定でしたが終了後の個別の点検相談が多く生徒の熱心が伝わってきました。ほぼ全ての自転車の調整を実施することができました。真面目に講習に参加していた生徒たちが印象的でした。

私たちは、今後も『いってらっしゃい おかえりなさい』をテーマに掲げ、綾高生の交通安全を支えるため出来る限りの行動を学校と共に進めていきます。自転車点検整備は、今後も続けます。今年度は12月に実施

予定です。

○質疑応答

Q、自転車点検講習会について、時間帯はいつ行われていますか

A、放課後実施しました。

Q、自転車登校の映像を見ると車道と歩道が狭く小・中学生の登校時間帯は危険なので押して歩くなどの指導はしていますか

A、小・中学生の登校時間帯には登校の安全を見守る、ふれあい交通指導を行っています。しかしながら自転車が集中する時間帯での危険性は地元の方々から「迂回路を設定してください」など苦情も出ている現状があります。今後もPTAと生徒協力して安全を第一に指導を行っていきます。

Q、体育祭に出した冷えた麦茶提供について、衛生面の配慮はどのようにしていますか

A、市販の2リットルのペットボトルの麦茶をジャクに入れ替えて紙コップで提供しました。

Q、文化祭で行う学校説明会では、PTAとしてどのような説明をしていますか

A、入学相談ではなく、保護者から見た学校の印象を「明るく良い学校です」とお答えしています。

Q、スケアードストレートについて、費用を教えてください。

A、二社で見積もりをとり、27万円～29万円です。

○助言 中央農業高校校長

添野 龍雄先生より

綾瀬市に以前2年間住んでいたこともあり、親しみを感じております。

テーマの『いってらっしゃい おかえりなさい』を、当たり前にするために、PTAや生徒、地域の方々など、自分たちで出来るところと、自転車のプロに頼むところと仕分けながら安全を目指している取り組みが立派でした。

前任校でのことですが、自転車のタイヤの空気を入れる場所の蓋を探している生徒がいたので「なくても空気は漏れないから大丈夫だよ」と言っても信じてもらえなかったことがありました。同じことをプロの方が教えていたら信じてもらえるのに。専門の方の講習会はとても意味のあることだと思います。最後のムービーを見て、安心して「いってらっしゃい おかえりなさい」が言える幸せ、興味深く感動しました。

講演

講演者 スポーツメンタルコーチ 柘植陽一郎氏

講演テーマ『スポーツから学ぶ「やる気を引き出すコミュニケーション」』

1 スポーツメンタルコーチングとは
書籍「嫌われる勇気」で多くの方に知られるようになったアドラー心理学をベースにしたコーチングを活用し、各種現場で良い結果を出すために発展してきました。ナンバーという雑誌で、「ボクシングの村田選手、スキージャンプの高梨沙羅選手、プロ野球の栗山監督、イチロー選手、サッカーの本田選手、その他錚々たるメンバーがアドラー心理学的なものを使ってる。」と紹介されていました。チームをまとめるためにも役立つし自分自身が成長していくためにも役に立つことがいっぱいあります。自分史上最高を、チーム史上最高を、そして、最高に味わい深い人生をサポートすることです。～チームや選手から依頼されることは～

- ・いかにして、成長を加速させるか
- ・いかにして、伸び代を引き出すか
- ・いかにして、楽しんでもらうか

「期限付きの目標達成支援」としての依頼を受けることが多い。

2 特徴と、重要なこと
メンタルとコミュニケーションを一緒に扱うということです。理論がわかったとしても現場で活かせるか、というのは別なのでちょっと変わったコミュニケーションを実際にチャレンジしていただくかと思いません。実際、皆さんも家に帰ったら早速お子さんと会話で使えるようなものなので、ご協力お願いします。

今日、本厚木駅のコーヒー店の店員さんがすごい笑顔で対応してくれたんです。思わず僕の気持ちが楽しい気持ちになりました。本当にちょっとした会話で自分の気持ちってこんなに変わるんだなと改めて感じました。

コミュニケーションとメンタルはすごく関係性があるんです。自分だけで「メンタルどうしよう」ではなく、人とコミュニケーションをとることによって、自分の気持ちが上がったり落ち込んだりします。スポーツメンタルコーチングは、人とのコミュニケーション、自分とのコミュニケーション、二つのコミュニケーションを一緒に扱うことで、今日皆さんが私の話を聴いて、何かにお使いいただけたらいいなと思います。近くの方と二人組になって会話をさせていただきます。AさんBさんの役割を分けます。Aさんは話を綺麗にまとめない、徒然なるままに話をします。Bさんは、徒然なる話しているAさんが話しやすい空気感で聴いてあげてください。これはとても重要なことです。なぜかと言うと、選手は、考えがまとまっていません。「今日どうだった？」と聞くと「今日のポイントは～」と話せる選手は、ほとんどいません。徒然なる話している選手の話を「続けていいよ」と言う空気感を出して聴いてあげることが大事なんです。これが、「お前の言ってることまとまってないなあ」という空気感を発すると話さなくなります。そしてAさんに感じてもらいた

いことは、話始めと話終わりが支離滅裂になっているのです。なぜかという、話始めた自分と話終わった時の自分が、もう違うステージにいるということなんです。話している中で何かに気づいた、そのプロセスが僕らがやっているコーチングなのです。コーチングというのは、話して言葉を紡いでいくうちに。「あっそうか、そんなこと考えるんだ」「そんなこと感じてたんだ」「そうじゃないかもしれない」というプロセス自体がコーチングなのです。羽生結弦選手はセルフコーチングが得意です。インタビューの途中で言葉を訂正するのです。「こういう感じでした」「ちょっと待ってください、さっきのは本当の気持ちと違います訂正していいですか」と。言葉にしてみても自分の気持ちに気づいて新しい言葉を使い始めたりします。それがセルフコーチングです。今日はAさん、Bさんになってコーチング的なコミュニケーションに触れて帰っていただけたら嬉しいです。Bさんにお願ひがあります。途中でAさんの話を奪わないでください。話をまとめる必要も、準備する必要も一切ありません。そして1分たったらチャイムを鳴らします。そして拍手をして終わります。

3 拍手の重要性

スポーツの現場で拍手をよく使います。例えば監督が選手に今日の練習は、「どうだった」「何か質問はないか」と聴いたとき、意見が出なかったとします。このままじゃ終わらないと思った選手が、恐る恐る手を上げて「○○じゃないかと思います」というと監督が「お前まだそんなこと言ってるのか！」と、一掃されてしまうんです。勇気を振り絞ったコメントに対して。選手にしたら、「せっかく言ったのに、もう言わな

い、言うもんか」となります。僕たちは、まずは意見の出しやすい雰囲気作りから始めてみましょう、意見の中身はさておき、意見を言ってくれたことに対して「言ってくれてありがとう」気持ちで拍手をします。するとみんな意見がいいやすいですね。今日は拍手するってどんな気持ちなのかな、拍手をもらうってどんな気持ちなのかなということも味わっていただけたらと思います。

4 スポーツメンタルコーチングを活用するためのポイント

基本的には教えない、選手自らの力を引き出します。モチベーションの元を引き出します。本人に気づいてもらうために、徒然なる話を聴きます。僕の中に答えはなく、選手の話の聴きながら本人に考えてもらう。相手の興味に興味を持つ。同時体験をしてどんな世界を見ているのか相手が何を感じてどんな夢を描いているんだろうか、そういう関わりも大事になってきます。

5 関わり方

相手、選手のことをわかった気持ちになって指示命令を出すのではなく、相手から聴き出してそしてアドバイス、もしくは引き出して、引き出して、引き出して本人に委ねる。評価、判断、分析を一切しない。話しやすい空気感、安心、安全な場所を作る。

6 やる気を引き出すためのコミュニケーションのポイント

指導者と選手それぞれが自分との対話(メンタル)ができるように、そして指導者と選手のコミュニケーションの質を向上させることによってメンタルを強化することができる。

(監督は)力づくで森(チーム)を動かそうと
しない→(選手)木が動き出す関わりかたと
は?相手のことをわかった気にならずに、
体験を中心にして、それに共感して話を聞

くこと。コーチングは、自ら未来を創るも
のである。評価、判断はせずに本人の中で
解決できるように導く。